

私の履歴書

釜本 邦茂

⑰

試合の後、必ず病院で検査を受けることも4年続いた。

督は引責辞任した。

後任の岡野俊一郎監督のデビュー戦となった70年3月の三国対抗で代表に復帰した。

表との3試合で7得点したエウゼビオの動きを食い入るように見詰め、私は1点しか取れなかった。

25歳から28歳といえは選手としての絶頂期だ。肉体が万全

コーチは八重樫茂生さんだ。

滞在中のエウゼビオを赤坂

だった。肉体が万全

帰化申請の許可が下りたのは

のホテルに訪ね、ネルソンの

を寄せられたと思う。現実

11月だが、この大会からネル

通訳で話もできた。

復帰後の2年間は90分のうち

ソン吉村が日本代表でプレー

「FWはボールをもらった

20分くらいしか納得のプレー

するようになった。頼もしい

も絶対に打つ、入れるという

はできなかった。

援軍が来た感じだった。

「FWはボールをもらった

試合と病院の往復 4年

憧れの選手と話 哲学に共鳴

代表復帰

13歳からがむしやりにやってきたサッカー。「ここらで休め」という天の声や「と思うように努めた」

メキシコ五輪前後

むとときに休まなかった体がウイルスを抑えこめなくなつて肝炎を発症したのだと思う。練習を再開したのは涼しくなった9月末からだ。体操や

ケガ知らずの体に捻挫以外の故障が増えたのもイメージどおりに体が動かなくなったせいだ。

日の天皇杯優勝の後も2月にヤンマーの東南アジア遠征があった。

ウオーキングから始めた。主治医の日笠敦先生が週1回観察に訪れた。不安なく練習ができるようになったのは翌70

杯）メキシコ大会予選に向けて旅立った。願ひむなく敗退。韓国、オーストラリアとの2回戦総当たりで日本はど

カンボジアで試合し、アンコールワットに連れていかれたら遠くで銃声が聞こえる。

年の日本リーグ（JSL）が始まるころ。薬を忘れて生活

最下位に終わった。長沼健監

地元の人が「ポルポトが攻めてきた」。「危ないやん。早

できるよつになるまで4年、

最下位に終わった。長沼健監



日本代表に加入した加藤 孝一

「FWはボールをもらった」

「FWはボールをもらった」

70年は夏にさらに忘れ難い出来事があった。あこがれの

エウゼビオがベンフィカ・リスボンと来日したのだ。生

もらったのはこの時。エウゼビオを擁した当時のベンフィカの強さは「来日したチーム

で最強」といまだに語る人がいるほど破格だった。日本代